

日交研シリーズ A-772

平成 30 年度自主研究プロジェクト

「観光に関する競争政策の実証的研究」

刊行：2020 年 2 月

観光に関する競争政策の実証的研究
An Empirical Research of Tourism Competition

主査：黒田 達朗（椋山女学園大学現代マネジメント学部教授）
Tatsuaki KURODA

要 旨

グローバル化の進行と各国の経済成長を背景として、観光が通常の財による国際貿易と同様の経済効果を有することが、ようやくわが国でも広く認識されるようになってきているが、一方では各自治体が国内観光の重要性を認識する契機にもなったように思われる。もちろん、国内各地からの観光客の意思決定動機の主要な部分は、国際的な観光と同様、訪問先の自然、伝統、文化、レジャー施設等における差別的な特色にあると思われるが、ハードなインフラ整備だけでなく、近年のイメージキャラクターを始めとしたソフトな観光振興策を含めて、公共部門が関与できる領域も大きいと思われる。

2018 年度は、わが国の都道府県の観光施設等の県内、県外からの観光客数のデータをもとに、その誘因を推定することにより、具体的な観光振興のあり方を検討する際の指針を得ることを基本的な目的としている。特に、観光を巡る各都道府県の観光スポットやミシュランで認定された施設だけでなく、都道府県の観光関連の投資額を対象に、その影響を実証的に明らかにすることを主要な目的としている。

具体的には、2011 年から 2017 年のデータを用いて、わが国の各都道府県別に、県内外からの観光客数等を被説明変数、当該都道府県の人口、自然、文化、天然の温泉施設、スポーツ施設、都市的な観光資源、祭事、他の都道府県からの平均距離等を説明変数として、重回帰分析を行った。この結果、県外からの来訪者に関しては、当地の人口規模や距離の影響が有意であるのに対し、県内からの旅行者については文化施設やミシュランの一つ星以上の施設数の影響が有意であるなど、来客者の居住地によって観光目的が異なることが明らかとなった。

キーワード：ツーリズム、インフラストラクチャ、観光投資、重力モデル

Keywords : tourism, infrastructure, tourism investments, gravity model